



ふくおか【Good👍】農業人100
 主な農産物／イチゴ

大藪 耕三さん (32歳) (営農地／三潞郡大木町大藪)

10年後には夢を現実のものに

《就農のきっかけ》

地味な仕事が社会を支えている。

大藪さんは高校卒業後、一流調理師になることを目指して福岡市の調理学校を経て市内のホテルで働きました。しかし、厨房の裏方での仕事に追われ、早朝から深夜まで休みなく働く日が続きました。

そんな中、結婚して子供ができたのですが、家族と触れ合う時間もなく、このままでよいのか悩みました。

「それまで農業はイチゴを少し手伝った程度で、重労働で地味な仕事なので就農することは全く考えていませんでした。」という大藪さん。しかし、社会に出て、「人目につかない地味な仕事とそれを担う人がいてはじめて社会は成り立つ」と気づき、親がやっていた農業を見直し、就農を考えました。



プロフィール

- 家族構成／父、母、本人、妻、子ども2人、祖母
- 前職／会社員(ホテルの調理師) ■営農年数／約5年
- 従業員数／3名 ■耕作(経営)面積／イチゴ(49.8a)
- 販路／JA共販

《これまでの過程》

まずは親や先輩のイチゴ経営を学ぶ

大藪さんは就農を機に、県の補助事業を活用して、当初40aだったハウスを約50aに拡大しました。そして気づいたことは、自分自身の非力さと雇用の持つ力の素晴らしさです。

就農して5年目になる大藪さん。親はもちろん、先輩や若い仲間からいろんなことを学んでいます。一昨年、部会内で毎年最高の単位収量を上げている先輩農家に習ってイチゴ栽培に取り組むようになり、収量の向上ができました。

《これからの展望》

今よりもゆとりのある経営を目指して

就農して1年くらいたったころに農業はやり方次第でいろんな可能性があると感じ、今のイチゴ経営には見られないような企業的経営をめざして、複合経営のイチゴ農家を視察し、研究中です。その一環として、今年の夏、空いたハウスでメロンを試作しています。何もかも初めてで、近くに栽培農家もなく、手探りで、試行錯誤しながら栽培中です。まだまだ、売り物になるようなものではないと思いますが、周年雇用体制を確保するための大きな一歩になっています。

今後とも、経営管理能力を身に付け、10年後には夢を現実のものにしていきたいと考えてます。



Good👍 成功のためのポイント

まだ、父の背中を見ながらのイチゴづくりですが、夢を実現するために頑張ります。